

人参の青果加工兼用新品種「キャスピ」の紹介

～抽苔が遅く、青果用・加工用どちらでも使いやすい～

作物生産研究部・園芸作物開発課

TEL:0123-88-1990

E-mail:engeisakumotu@hokuren.jp

はじめに

- ・道内では、人参の加工原料として青果用の規格外品の一部が活用されている事例が多い一方、青果用品種の栽培では、抽苔や裂根の発生等により十分な加工原料が得られない場合があります。
- ・加工用では、作付けの多い晩生品種「カーソン」のほか、より早生の品種が求められています。

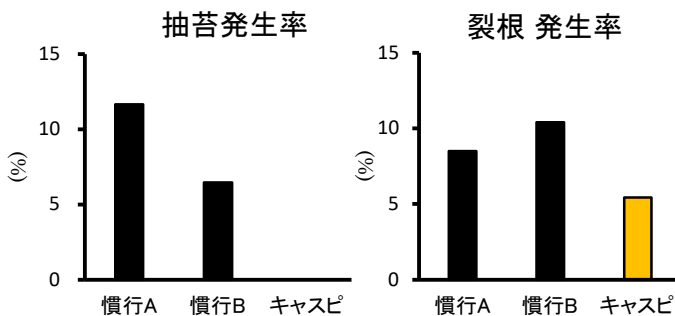


早生で抽苔や裂根の発生が少ないなど、加工・青果どちらでも使いやすい「キャスピ」(ベジヨー・ジャパン株式会社)を選定

キャスピの特長と使い分け

青果用

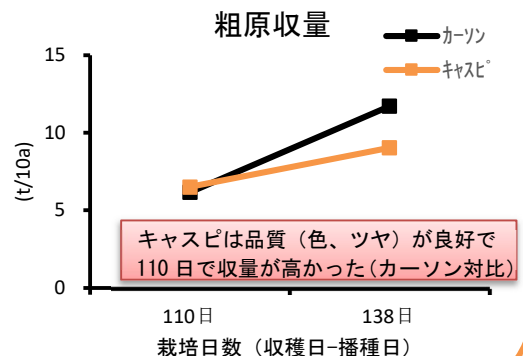
- ・春播き～初夏播きまで幅広い播種期に使用できる。抽苔が発生しにくい。
- ・形状が短く揃うため、歩留りが高い。
- ・裂根が少なく、在圃性が高い。



(長沼研究農場試験 令和3年度結果)

加工用

- ・早生で播種後110日前後に収穫できる(より晩生で高収量を望む方には、「カーソン」の方がおすすめです)。
- ・裂根が少なく、加工向率が高い。



キャスピは品質(色、ツヤ)が良好で110日で収量が高かった(カーソン対比)

(長沼研究農場試験 令和3年度結果)

現在、高収量で障害の少ない「カーソン」や「キャスピ」の後継品種の開発を進めています。「キャスピ」および後継品種の開発状況の詳細については、上記までお問合せください。また、種子のご要望につきましては、JAまでお問い合わせください。

品種の使い分け

